

精神医学

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	2人 (2人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	4人 (2人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	1人
医員	3人
研修医	2人
特任研究員	3人
大学院学生(うち他講座から)	1人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	15人
合計	32人

1-2 教員の異動状況

山末英典、教授、平成28年6月1日～現職
鈴木勝昭、准教授、平成25年4月1日～平成28年5月31日退職
竹林淳和、講師、平成23年4月1日～現職
和久田智靖、講師、平成21年4月1日～現職
横倉正倫、助教、平成24年4月1日～現職
亀野陽亮、助教、平成25年4月1日～現職
栗田大輔、助教、平成23年4月1日～現職
水野大地、助教、平成28年4月1日～現職
浅川哲也、特任講師、平成26年4月1日～平成29年3月31日

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名	自閉スペクトラム症の中核症状に対する初の治療薬開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	これまで治療薬がなかった自閉スペクトラム症の中核症状に対して、世界初となる治療薬の開発を進めている。
	(3)前年度までの状況	予備的検討の成果を示して国際的に高い評価を得た。
	(4)当該年度内の進捗	国の支援を得て代表責任機関として全国規模の多施設共同研究を開始した。
	(5)翌年度の方針と予想	代表責任機関として全国規模の多施設共同研究を推進する。
2	(1)研究・開発等のテーマ名	精神症状の病態解明を目的とした脳画像研究
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略	精神症状の形成を規定する候補遺伝子の中間表現型となる脳の機能／形態／分子病態を明らかにする。
	(3)前年度までの状況	摂食障害、統合失調症、PTSDなど複数の精神疾患を対象に複数の脳画像研究を進めて来た。
	(4)当該年度内の進捗	摂食障害、統合失調症、PTSDなどを対象とした脳画像研究を進めた。
	(5)翌年度の方針と予想	摂食障害、統合失調症、PTSDに加えて自閉スペクトラム症やうつ病の脳画像研究を開始する。

3 論文、症例報告、著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	9編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	34.351
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	6編 (6編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	0編 (0編)
(5)症例報告数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文**A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Yokokura M, Terada T, Bunai T, Nakaizumi K, Takebayashi K, Iwata Y, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Suzuki K, Mori N, Ouchi Y: Depiction of microglial activation in aging and dementia: Positron emission tomography with [11C]DPA713 versus [11C](R)PK11195. J Cereb Blood Flow Metab 37(3): 877-889, 2017.	4.929
2.	Kameno Y, Suzuki K, Takagai S, Iwata K, Matsuzaki H, Takahashi K, Wakuda T, Iwata Y, Magata Y, Mori N: Mismatch in cerebral blood flow and glucose metabolism after the forced swim stress in rats., Acta Neuropsychiatr, 28, 6, 352-356, 2016.	0.760
3.	竹林 淳和: 摂食障害治療支援センター、精神科、28巻、40-45、2016	0.000

論文数(A)小計 3 うち和文 0 IF小計 5.689**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Terada T, Yokokura M, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Kono S, Konishi T, Miyajima H, Hashizume T, Ouchi Y: Extrastriatal spreading of microglial activation in Parkinson's disease: a positron emission tomography study. Ann Nucl Med 30(8): 579-587, 2016	1.467

論文数(B)小計 1 うち和文 0 IF小計 1.467**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Takano Y, Aoki Y, Yahata N, Kawakubo Y, Inoue H, Iwashiro N, Natsubori T, Koike S, Gono W, Sasaki H, Takao H, Kasai K, Yamasue H*. Neural basis for inferring false beliefs and social emotions in others among individuals with schizophrenia and those at ultra-high risk for psychosis. Psychiatry Research: Neuroimaging 2017; 259:34-41.	2.466
2.	Watanabe T, Otowa T, Abe O, Kuwabara H, Aoki Y, Natsubori T, Takao H, Kakiuchi C, Kondo K, Ikeda M, Iwata N, Kasai K, Sasaki T, Yamasue H*. Oxytocin receptor gene variations predict neural and behavioral response to oxytocin in autism. Social Cognitive and Affective Neuroscience 2017;12(3):496-506.	5.101
3.	Kosaka H, Okamoto Y, Munesue T, Yamasue H, Inohara K, Fujioka T, Anme T, Orisaka M, Ishitobi M, Jung M, Fujisawa T, Tanaka S, Arai S, Asano M, Saito D, Sadato N, Tomoda A, Omori M, Sato M, Okazawa H, Higashida H, Wada Y. Oxytocin efficacy is modulated by dosage and oxytocin receptor genotype in young adults with high-functioning autism: A 24-week randomized clinical trial. Transl Psychiatry 2016;6(8):e872.	1.861
4.	Okada N, Fukunaga M, Yamashita F, Koshiyama D, Yamamori H, Isobe M, Isomura S, Natsubori T, Narita H, Hashimono N, Miyata J, Koike S, Takahashie T, Yamasue H, Matsuo K, Onitsuka T, Iidaka T, Kawasaki Y, Yoshimura R, Watanabe Y, Suzuki M, Turner JA, Takeda M, Thompson PM, Osaki N, Kasai K, Hashimoto R. Abnormal asymmetries in subcortical brain volume in schizophrenia. Mol Psychiatry. 2016;21(10):1460-6.	13.314
5.	Balan S, Yamada K, Iwayama Y, Hashimoto T, Toyota T, Shimamoto C, Maekawa M, Takagai S, Wakuda T, Kameno Y, Kurita D, Yamada K, Kikuchi M, Hashimoto T, Kanahara N, Yoshikawa T. Comprehensive association analysis of 27 genes from the GABAergic system in Japanese individuals affected with schizophrenia. Schizophr Res.pii: S0920-9964(17)30003-8. 2017.	4.453

論文数(C)小計 5 うち和文 0 IF小計 27.195**(3) 総説****A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	山末英典「精神症状の客観定量化～表出と内的処理過程の乖離～」最新精神医学 22(2): 79「巻頭言」, 2017.	0.000
2.	山末英典「巻頭言～精神疾患研究における「必要性」について～」精神医学 59(2):104-105, 2017.	0.000
3.	山末英典「自閉スペクトラム症におけるオキシトシンの効果」日本医師会雑誌 145(11):2372, 2017.	0.000
4.	山末英典「オキシトシン点鼻薬の自閉スペクトラム症に対する臨床応用」内分泌 糖尿病 代謝内科 43(1):73-78, 2016.	0.000
5.	山末英典「脳画像で精神疾患の何が分かるのか」精神科臨床Legato 2(4):20-25, 2016.	0.000
6.	栗田大輔, 女性の摂食障害のケア, 産婦人科の実際, 66巻, 293-298, 2017	0.000

総説数(A)小計 6 うち和文 6 IF小計 0.000**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの**総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	1件

国際出願日:2016年8月22日
 国際出願番号:PCT/JP2016/074371
 1. 新規PCT出願(指定国:日本を除く全指定)
 基礎出願:特願2015-165274
 発明の名称:オキシトシン感受性予測マーカー

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	14件	950万円
(2) 厚生労働科学研究費	1件	72万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	3件	3,904万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	5件	308万円
(5) 他政府機関による研究助成	1件	120万円
(6) 財団助成金	1件	30万円
(7) 受託研究または共同研究	1件	123万円
(8) 奨学寄附金	8件	525万円

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	望月洋介(代表), 井上淳, 竹林淳和, 稲土愛奈(分担), 基盤研究(C), うつ病に対する集団行動活性化療法の効果検討とプログラム開発, 平成27年度~平成29年度	55万円
2.	竹林淳和(代表), 横倉正倫, 亀野陽亮, 鈴木勝昭(分担), 基盤研究(C), うつ病に対するECTの改善効果:MRSとPETによるエネルギー代謝の検討, 平成27年度~平成29年度	130万円
3.	和久田智靖(代表), 横倉正倫(分担), 基盤研究(C), 統合失調症の脳内 α 7ニコチン様アセチルコリン受容体:PETによる研究, 平成28年度~平成30年度	90万円
4.	横倉正倫(代表), 和久田智靖(分担), 基盤研究(C), 神経性無食欲症の脳内 α 7ニコチン受容体の症候学的検討, 平成28年度~平成30年度	200万円
5.	井上淳(代表), 望月洋介(分担), 挑戦的萌芽研究, EMDRIによる外傷後ストレス障害の治癒機転に関する脳画像研究, 平成27年度~平成29年度	40万円
6.	竹林淳和, 鈴木勝昭(分担), 挑戦的萌芽研究, ミクログリア活性化に対する光療法の開発—動物モデルを用いた基礎的研究—, 平成27年度~平成28年度,(研究代表者)児童青年期精神医学 高橋太郎	40万円
7.	望月洋介(分担), 挑戦的萌芽研究, 強迫性障害のディメンションに関する学校調査, 平成28年度~平成29年度,(研究代表者)児童青年期精神医学 高貝就	0万円
8.	亀野陽亮(代表), 若手研究(B), うつ病モデルにおける脳糖代謝異常のメカニズム解明, 平成28年度~平成30年度	100万円
9.	山末英典(分担), 基盤研究A, 発達障害を中心とする精神疾患の生物学的基盤を検証するマウス総合解析システムの構築, 平成26年度~平成28年度,(研究代表者)理化学研究所バイオリソースセンターチームリーダー 若菜茂晴	100万円
10.	山末英典(分担), 基盤研究A, 多様な生体制御機能を担うオキシトシン受容体研究の展開と新規アゴニスト解析系の樹立, 平成27年度~平成30年度,(研究代表者)東北大学(連合)農学研究科(研究院)教授 西森克彦	30万円
11.	浅川哲也(分担), 鈴木勝昭(分担), 基盤研究(C), パーキンソン病—脳深部刺激モデルラットでのPETによるドパミン放出の研究, 平成26年度~平成29年度,(研究代表者)脳神経外科学 杉山憲嗣	15万円
12.	浅川哲也(代表), 基盤研究(C), パーキンソン氏病サルモデルの粗大運動と微細運動に対するDBSのPETを用いた研究, 平成27年度~平成29年度	90万円
13.	豊田志保(代表), 基盤研究(C), ハイリスク出生コホート研究に基づく自閉症スペクトラム障害の超早期兆候の特定, 平成26年度~平成29年度	10万円

14.	中原大一郎(代表), 基盤研究(C), 脳に発現する免疫分子MHCの注意欠如・多動性障害への関与, 平成27年度～平成29年度	50万円
-----	---	------

(2) 厚生労働科学研究費

1.	竹林淳和(分担), 摂食障害の診療体制整備に関する研究, 平成26年度～平成28年度,(研究代表者)国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター安藤哲也	72万円
----	---	------

(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成

1.	亀野陽亮(分担), 血液バイオマーカーを用いたうつ病と双極性障害の鑑別診断法の開発に関する研究, 平成26年度～平成28年度,(研究代表者)千葉大学 教授 橋本謙二	100万円
2.	山末英典(代表), 新規オキシトシン製剤を用いた自閉スペクトラム症の革新的治療法の開発と治療効果予測技術の開発, および発症とその改善効果発現のメカニズム解明に基づく次世代治療薬シーズの創出, 平成28年度	3503万円
3.	山末英典(代表), 革新的な自閉症中核症状治療法の創出, 平成28年度	300万円

(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成

1.	山末英典, 人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点, 研究成果展開事業センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム	308万円
----	--	-------

(5) 他政府機関による研究助成

1.	山末英典, 独立行政法人日本学術振興会, 社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明, 平成28年度	120万円
----	--	-------

(6) 財団助成金

1.	井上淳,(公財)メンタルヘルス岡本記念財団, 強迫性障害に対する曝露反応妨害法と森田療法の合理的な治療選択についての研究—ディメンションに基づく治療戦略の検討に基づいて—	30万円
----	---	------

(7) 受託研究または共同研究

1.	(共同研究) 和久田智靖, 自閉症診断マーカーに関する探索研究, 大日本住友製薬株式会社, 平成27年度～平成28年度	123万円
----	--	-------

6 大型プロジェクトの代表, 総括

融合脳グループ代表(約6億/5年)およびチーム代表(約20億/5年)

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	1 件
2) シンポジウム発表数	2 件	13 件
3) 学会座長回数	0 件	1 件
4) 学会開催回数	0 件	0 件
5) 学会役員等回数	0 件	5 件
6) 一般演題発表数	1 件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1.	Hidenori Yamasue “An application of neuroimaging to satisfy unmet medical needs associated with autism spectrum disorders” JSBN-RIEMS joint Symposium “International educational symposium of prosocial behavior”, 25th JSBN, Sep 14, 2016, Atami, Shizuoka
2.	山末英典「遺伝子情報による自閉スペクトラム症に対するオキシトシン投与効果の予測」神経科学学会との合同シンポジウム: 脳科学から見た自閉スペクトラム症 第46回日本神経精神薬理学会年会、2016年7月2日、ソウル、韓国

6) 一般発表

6-2) ポスター発表

1.	Yokokura M, Terada T, Bunai T, Nakaizumi K, Takebayashi K, Futatsubashi M, Yoshikawa E, Ouchi Y: “Reduced serotonin transporter availability in anorexia nervosa: a [11C]DASB PET study” Neuroscience 2016, Nov.12-16,2016, USA.
----	--

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

1.	山末英典「オキシトシン治療開発における脳画像解析の応用—Endophenotype-associated Surrogate Endpoint (EASE)の提案—」第8回御茶ノ水Neuroimaging Conference、東京、2016年8月27日
----	---

2)シンポジウム発表

1. 山末英典「自閉スペクトラム症のオキシトシン治療と臨床応用への展望」静岡県西部精神科学術講演会、浜松、2017年3月2日
2. 山末英典「自閉スペクトラム症中核症状に対する新たな治療薬の開発～オキシトシンとマルチモダリティ脳画像解析の応用～」愛知県精神科学術講演会、名古屋、2017年2月9日
3. 山末英典「マルチモダリティMRI指標を活用した自閉スペクトラム症のオキシトシン治療の開発」次世代脳プロジェクト 冬のシンポジウム AMED企画シンポジウム「革新的技術開発と治療戦略の最前線」、一橋講堂、東京、2016年12月20日
4. 山末英典「自閉スペクトラム症へのオキシトシン治療とその臨床応用への展望」平成28年度発達障害医学セミナー、青山、東京、2016年12月18日
5. 山末英典「対人交渉の困難さの治療薬開発～アタッチメントホルモン“オキシトシン”の治療応用～」第26回静岡県こどもの精神保健フォーラム、沼津、2016年11月27日
6. 山末英典「オキシトシンと社会的コミュニケーションの障害」第5回社会神経科学研究会、生理研、岡崎、2016年11月24日
7. 山末英典「オキシトシンと社会行動の障害」第50回日本小児内分泌学会イブニングセミナー、東京、2016年11月16日
8. 山末英典「マルチモダリティMRIを応用した社会性の障害の病態解明とオキシトシン治療の開発」静岡県東部精神科医会学術講演会、沼津、2016年11月15日
9. 山末英典「オキシトシン経鼻剤による社会的コミュニケーションの障害の治療法開発」第135回日本薬理学会関東部会シンポジウム2、浜松、静岡、2016年10月8日
10. 山末英典「自閉スペクトラム症の脳画像研究からわかること」第9回発達障害精神医療研修、精神保健研究所、東京、2016年9月16日
11. 山末英典「画像解析による精神症状の病態解明と新たな治療法の開発」静岡県中部精神科医会学術講演会、静岡、2016年7月21日
12. 山末英典「社会的コミュニケーションの障害の脳画像研究から新たな治療法の開発へ」第9回新潟こころの発達医学セミナー、新潟、2016年6月11日
13. 竹林 淳和、『静岡県摂食障害治療支援センター』静岡県の医療連携システムから 我が国の摂食障害治療モデルへ、日本摂食障害学会学術集会、東京大学伊藤国際学術研究センター、2016年9月

3)座長をした学会名

1. 竹林 淳和、東海精神神経学会、名古屋国際センター、2017年2月

5)役職についている国内学会名とその役割

1. 山末英典：日本精神科診断学会 評議員 2016年～
山末英典：日本神経科学会 プログラムコア委員
山末英典：日本神経精神薬理学会 薬事委員
2. 竹林淳和：日本生物学的精神医学会 評議員
竹林淳和：日本摂食障害学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	2 件	0 件

(1)外国の学術雑誌の編集

1. 山末英典：Field editor of Psychiatry and Clinical Neurosciences、Editorial Board、2014年～
2. 山末英典：Academic editor of PLOS ONE、Editorial Board、2014年～

(3)国内外の英文雑誌のレフリー

1. Psychiatry Research Neuroimaging 3回、Molecular Psychiatry 1回、American journal of psychiatry 1回、Translational Psychiatry 1回

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	2 件
(3)学内共同研究	1 件

(2)国内共同研究

1. オキシトシン研究、北海道大学、東北大学、東京大学、理化学研究所、早稲田大学、名古屋大学、大阪大学、九州大学、H28.5-H29.3、多施設共同研究、学会発表など、AMED融合脳
2. 社会認知研究、神戸大学、愛知医大、H28.5-H29.3、多施設共同研究、AMED融合脳、英文原著論文など、日本学術振興会

(3)学内共同研究

1. クロザピンの基礎的研究、瀬藤教授研究室、H28.11-H29.3、論文投稿中

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	1 件

1. 企業 1件

11 受賞

(1) 国際的な授賞

1. 山末英典: esearch Foundation for Opto-Science and Technology “Hiruma/Wagner Award” Mind brain imaging program, 16th Conference of Peace through Mind/Brain Science, Hamamatsu, Japan, 2016

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

1. ニュースアプリ 特集 摂食障害、日本テレビ、2017年2月22日

13 その他の業績